

公益社団法人 8020 推進財団

平成27年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1.事業名:特別養護老人ホームにおける摂食嚥下カンファレンス

2.申請者名:公益社団法人 東京都武蔵野市歯科医師会 会長 森田 邦夫

3.実施組織:公益社団法人 東京都武蔵野市歯科医師会

4.事業の概要:

市内 2 か所の特別養護老人ホーム入所している利用者の中から、月に 1 度、事前にカンファレンスを開いて摂食嚥下の問題があると思われる入居者数名を選出し、食事の際、時間、姿勢、食形態、一口量や顎運動、むせ反射、スタッフ補助等食事環境を含めた総合的な観察を行う(ミールラウンド)観察後、多職種による「摂食・嚥下カンファレンス」を行い食事の際の問題点を洗い出し、それらの改善点、対処法等を具体的に協議し、施設職員や入居者家族に理解を求め対応していく。

カンファレンスに関わる多職種は歯科医師数名(大学専門医を含む)、歯科衛生士、施設看護師、介護職員、管理栄養士などで、必要に応じ、VE(嚥下内視鏡検査)や動画撮影も了解を得て行っている。

5. 事業の内容:

高齢者の機能低下や脳梗塞後遺症等により、摂食・嚥下障害をきたす方々は多いが、食事風景を詳細に観察、その後のカンファレンスを多職種で行うことにより、食形態の工夫や、一口量の調整、食事の姿勢など改善策を話し合い、誤嚥性肺炎の予防や窒息のリスク軽減に寄与すると共に、安心、安全に食事をとることが出来、いつまでもお口から食べる嬉しさを味わってもらえる事を目的としている。

6.実施後の評価(今後の課題):

一年間の延べ人数157名を対象に「摂食・嚥下カンファレンス」を行ってきたが、施設内での誤嚥性肺炎による入院は減少し、再発の抑制にもつながったと思われる。

他職種が連携、協力し合うことにより、個人での対応が難しい場合も比較的スムーズに対処出来、問題意識を共有する事の大切さも実証出来たと考える。

今後の課題として、専門性の高い摂食・嚥下評価の出来る人材育成と他職種連携を拡大、継続して推進できるシステムの構築等が挙げられる。